

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：小林 秀高

氏名のローマ字表記：Kobayashi Hidetaka

所属：拓殖大学北海道短期大学

専門分野：政治学，比較政治学，選挙制度，民主化

発表のタイトル：モンゴル国における議会選挙制度改革と大統領選挙の連関

発表要旨（600字～800字程度）：

本報告は、モンゴル国において議会選挙制度改革が大統領選挙に与えた影響を考察することが目的である。2017年に行われた大統領選挙は、民主党、人民党、人民革命党の3政党が大統領候補を擁立し票が分散した結果、モンゴル国の大統領選挙史上初めて第1回投票で当選者が決まらず第2回投票が行われた。この背景には、人民革命党の人民党への党名変更とそれともなう分裂、民主党の候補者の統合などの要因が指摘される。本報告では、これらの政党の合従連衡は議会選挙の選挙制度改革によりもたらされ、その結果が2017年度の大統領選挙における政党の行動につながったことを論じる。

検討すべき要因は以下の2つである。第1に、1992年～2008年、2016年の議会選挙において人民党（旧人民革命党）が右肩下がりに得票率を低下させているにもかかわらず、多数代表制（小選挙区制もしくは完全連記制の大選挙区制）が人民党の議席にプレミアムを与えていたことと、その選挙制度の下で分裂していた民主党が候補を一本化していく過程を選挙結果のデータから論じる。第2に、2012年の議会選挙における比例代表制の導入が、人民党と人民革命党の分裂を促進したことを論じる。多数代表制の下では人民革命党の分裂は非合理的な行動であったが、一定の得票率があれば議席を獲得できる比例代表制採用が、人民革命党の分裂を促進したことを各党の得票率から説明できる。2016年の選挙では比例代表制が廃止され、多数代表制のみの選挙制度に変更され、その結果人民革命党は大きく議席を減らしたがかりうじて議席を確保することが出来た。大統領選挙は、議会に議席を持つ政党のみ候補の擁立が可能である制度であり、これが2017年の大統領選挙の布石となる。

人的な要因で説明されることが多いモンゴル国の政治であるが、制度的な要因に着目して説明することが研究の目的である。